

飯綱町副町長へ感謝訪問 サンクゼール初蒸留のりんごブランデーを手に

「久世福商店」、「St. Cousair（サンクゼール）」などの専門店を全国に110店舗以上展開している、食品製造小売企業（食品SPA）の株式会社サンクゼール（本社：長野県飯綱町／代表取締役社長：久世良三）、代表取締役社長久世が、2017年6月16日（金）、今月末で任期満了を迎える飯綱町副町長の小澤勇人氏へ感謝の訪問を行いました。



小澤氏は2015年7月、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部の地方創生人材支援制度により、総務省から飯綱町に2年の任期で派遣されました。飯綱町副町長に就任した小澤氏が取り組まれた打ち出した数々の地方創生事業の中で、地域資源を活かした産業発展を目的とした取り組みとして、飯綱町の豊富な資源であるりんごを使って、飯綱町の企業であるサンクゼールが蒸留酒を作るプロジェクトが発足。りんご蒸留酒の本場「カルヴァドス」づくりをフランス・ノルマンディーへ視察したり、ノルマンディーから「カルヴァドス」の造り手を招致したりなど、様々な取り組みが積極的に行われました。2017年4月ドイツから取り寄せた蒸留器がサンクゼールに設置され、5月22日、飯綱町産りんごを使ってサンクゼールで初めて、りんご蒸留酒の製造が行われました。サンクゼールのみならず、飯綱町としても新しい歴史の幕開けともなったこのプロジェクトを無事に終え、今月末総務省へ戻る小澤氏に感謝の気持ちを伝えるため、6月16日サンクゼール代表取締役社長久世が飯綱町役場を訪問。感謝の気持ちを込めて、5月22日に初蒸留した記念すべき1本と、小澤氏と一緒にあゆんだ軌跡を資料にまとめて贈呈しました。

サンクゼールとりんごブランデー

1984年サンクゼールの創業者久世良三・まゆみが新婚旅行でフランス・ノルマンディーに行きました。一面のりんご畑、その中に佇む蒸留所のある美しい田園風景とそこで誇りをもって生きる人々の姿、その成熟した大人の文化に感銘を受けた久世が、三水村（現飯綱町）に誘致を受け、スタートしたのがサンクゼールの丘です。当初から久世が思い描いていた夢の蒸留酒作りが、飯綱町サンクゼールの丘でいよいよスタートしました。



一般的には、「カルヴァドス」という名前で広く知られているりんご蒸留酒は、フランスのノルマンディー地方のカルヴァドスで造られているものだけに「カルヴァドス」と名乗ることができ、この地域以外で作られる同様の蒸留酒は「カルヴァドス」と名乗ることはできません。サンクゼールは飯綱町産りんごを使って蒸留、樽熟成させ、「いづなシードルブランデー」という商品名で、早くも2020年頃から販売を予定しています。